



【幌延町から】

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の幌延深地層研究センターの研究や取組について広く知ってもらうことを目的に、幌延深地層研究センターで行われる研究開発などに関する紹介記事を広報誌7月号から連載します。

「地下の研究現場から」第1回－幌延深地層研究センター

私たちの行っている研究について、広くご理解いただくために幌延町広報誌「ほろのべの窓」の紙面をお借りして町民の皆様をはじめ、ご愛読者様に研究内容についてご紹介させていただきます。

幌延町トナカイ観光牧場の隣にある幌延深地層研究センターの所長の山口です。今回、「ほろのべの窓」に私たちが行っている様々な研究を紹介させて頂くことになりました。第1回目は、当センターの概要を紹介します。

当センターでは、平成13年から原子力発電で発生する廃棄物を処分するときに利用する技術の研究開発を行っています。当センターの敷地内に、東京タワー（てっぺんまでの高さ333m）がすっぽり入る地下350mまでの穴を掘って、地下深くにトンネルを掘り進める方法や地下の岩石や地下水を調べる方法、廃棄物を埋める方法などの研究を行っています。

当センターには、令和2年6月時点で約80人の従業員がおり、元町、宮園町や名林公園の近くの寮や社宅で生活していますので、町の行事や同好会などにも、お気軽にお誘い頂ければと思います。

次号の「ほろのべの窓」から、当センターの研究について順番に分かりやすく紹介します。

当センターは、地下深くまで入ることのできる日本では珍しい貴重な施設です。新型コロナウイルス対策「新北海道スタイル」に対応した準備をして、皆様のお越しをお待ちしています。

幌延深地層研究センター



幌延深地層研究センターの所在地は、ゆめ地創館のタワーが目印になります。

幌延深地層研究センターの山口所長



毎年、国際交流施設で行っている地域の皆様方への研究計画説明会や成果報告会でのあいさつ。

幌延深地層研究センターの地下施設



ゆめ地創館のタワー展望階（地上45m）からは、地下施設の地上部分を一望できます。

タワーの展望階から見た利尻富士



冬の空気が澄んだ日には、遠く利尻富士の山頂を見ることが出来ます。

お問い合わせ先：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構幌延深地層研究センター

電話・告知端末機：5-2022 <https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/>

ゆめ地創館：電話・告知端末機：5-2772 <https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/yumechisoukan/index.html>